

# 新風

## VUCA(ブーカ)な時代を生き延びる術

新潟青陵大学学長

木村 哲夫



この春、新潟青陵大学の学長に就任して、入学生を迎えたとき、どんな言葉をかけてやればよいか悩みました。コロナ禍で期待よりも不安が強いであろう新入生へのメッセージにこめたことは、「VUCA(ブーカ)な時代を生き延びる術を身につけてほしい」ということでした。

VUCAはもともと、冷戦後の国際情勢を示す言葉として生まれ、それが軍事用語として使われ、近年ビジネスにおいても使われるようになった造語です。Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)という、4つの単語の頭文字を取ったものです。変動が大きく、不確実なことが多く、様々な要因が複雑に絡み合い、簡単に解決策が見つからず、曖昧な状態を受け入れざるをえない不確実な現代を形容することばとしてVUCAは使われるようになりました。

今後、我々は、これまでの知識体系や問題解決手法では解決できない問題に直面することが頻繁に起こるでしょう。先人たちが蓄積した問題解決手法では答えが見つからない場合は、自分で新しい手法を考えなければなりません。自分の目でみたこと、自分が集めた情報をもとに、自分で判断するこ

とが必要になります。

私の研究分野は外国語教育ですが外国語学習を成功に導くカギのひとつにambiguity tolerance(曖昧性への耐性)というコンセプトがあります。たとえば、読んでいる文章にいくつか知らない単語があっても、曖昧な部分はそのままにした状態で、全体的に理解しようとする態度が重要だということです。外国語学習の成功のカギと現代社会を生き延びるカギに共通点があることは、とても興味深いことです。

これからのVUCAな時代では、解法もなく、単一の正解のない問題へ対処する必要があります。多様性と大きな変動を許容できること、曖昧性と不確実性への耐性を持つことは、そんな時代を生き延びる術となるだけでなく、外国語をマスターするカギにもなります。そういった術を身につけた上で、失敗を恐れずに、未解決な問題にひるむことなくチャレンジし続けていきたいものです。

### PROFILE

木村 哲夫(きむら てつお)

1960年東京都生まれ。早稲田大学人間科学研究科修士、博士(人間科学)。専門は、外国語教育・コンピュータ適応型テスト。